

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
中央動物総合専門学校	令和2年3月30日	鈴木 康之	〒424-0806 静岡県静岡市清水区辻一丁目12-17 (電話)054-371-7000																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人鈴木学園	昭和43年11月9日	理事長 鈴木 啓之	〒411-0036 静岡県三島市一番町15-35 (電話)055-971-1833																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	専門課程	動物総合学科	平成6年文部科学大臣告示第84号																								
学科の目的	第3条 中央動物総合専門学校は、教育基本法(昭和22年法律第25号)の精神に則り、学校教育法(昭和22年法律第26号)に従い、動物看護師、トリマー、動物飼育員の養成を行うとともに、教養の向上と人格の陶冶を図るため、組織的な教育を行うことを目的とする。																										
認定年月日	令和2年 3月 30日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	動物看護師コース ペット美容コース マスタープログラムコース	昼	2216時間	1323時間	120時間	773時間	0時間	0時間																			
			2118時間	584時間	4時間	1530時間	0時間	0時間																			
			1966時間	1012時間	24時間	930時間	0時間	0時間																			
			1966時間	1012時間	24時間	930時間	0時間	0時間																			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
180人	192人	0人	10人	33人	43人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 秀(100～96)優(95～80)良(79～70)可(69～60)不可(59点以下)																						
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬～8月下旬 ■冬季:12月下旬～1月上旬 ■学年末:3月下旬～3月末日			卒業・進級条件	・履修時間を満たしていること。 ・各科目の成績評価が全て合格であること。 ・当該年度までの学費及び受験料がすべて納入されていること。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・長期欠席者への指導等の対応・個人面談、保護者面談・スクールカウンセラーによる面談・教員の外部機関メンタルヘルス研修、個別対応指導等			課外活動	■課外活動の種類 動物保護施設でのボランティア活動・学生スタッフとしての学校行事サポート(学園祭等) ■サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(卒業生なしのため予定) 動物病院・ペットサロン・ペットショップ・動物園・水族館・牧場・動物保護施設 ■就職指導内容 礼節・面接の指導 履歴書作成 求人紹介 ■卒業生数: --- 人 ■就職希望者数: 87 人 ■就職者数: --- 人 ■就職率: --- % ■卒業者に占める就職者の割合: --- % ■その他 (令和3年度卒業者に関する令和3年6月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に關する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>91名</td> <td>84名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理士2級	③	91名	84名												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
愛玩動物飼養管理士2級	③	91名	84名																								
中途退学の現状	■中途退学者 4 名 ■中退率 4 % 令和2年4月1日時点において、在学者 92名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者 88名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、一身上の都合、学業不振 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談、保護者面談、スクールカウンセラーによる面談、教員の外部機関メンタルヘルス研修、個別対応指導等																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 無 ※特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構2019 http://jcore.or.jp/accreditation.html																										
当該学科のホームページURL	https://suzuki.ac.jp/animal/																										

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- 教育編成委員会を通して、出された意見をできる限りその年度の授業に反映していく。
- また、学科内で情報を共有し、適宜カリキュラムの見直しを行う。
- ・授業外で企業と連携した特別講義を実施し、常に新しい知識と技術の修得ができる時間を確保する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
教育課程編成委員会は、各学科に配置し、学科の教育内容について意見を交換し、または協力して、教育の質の向上に努める。
□各学科の教育課程編成委員会で検討された内容は、本部に報告される。
□専攻分野を越えて活用が可能な企業連携の在り方は、学園全体で情報の共有を図り、また協議して、教育の質の向上に努めるため、学校には教育検討会を設置する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
白輪 剛士	有限会社レップジャパン代表取締役	令和3年4月1日～令和4年3月31日	③
竹下 秀人	日本平動物園 園長	令和3年4月1日～令和4年3月31日	①③
殿岡 和明	静岡市動物指導センター 所長	令和3年4月1日～令和4年3月31日	①

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

- 教育課程編成委員会は、10月 3月に開催。
委員長が認めたとき変更と臨時委員会を開催できる。
(開催日時)
第1回 令和3年10月初旬 14:00～15:00予定
第2回 令和4年3月下旬 14:00～15:00予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ・講義内容の充実
学生評価を行い、各教員に対し評価結果について講評し、改善策を検討する。
- ・取得資格の検討
就職後に活用できる資格の見直し、資格
- ・取得対策の改善
1年次から各学年での資格取得対策を実施し、成績不良者に対する補講、個別指導、グループチューター制による教員指導、保護者との連携など、対策を行うことで全員合格を目標に努力していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

・患者さんへの対応や大動物、海洋動物などの実習は校内で指導することや学生自身が経験することが難しい。実習時に専門分野に関する知識・技能・技術（最新技術や専門性の高い技術）を施設等で経験することは、就職後の実務を遂行する上で大切である。また、企業ニーズ、業界ビジョンを教授することで、仕事に対する目標や、将来像を具体化できる。その他社会人基礎力の習得やその方法を学ぶことができ、社会人力育成に繋がる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

- ・日本平動物園との通年の実務研修
- 実務に必要な知識と技術の臨地研修
- ・現場体験と講話による研修

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な4科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動物看護総合実習	校内の授業・実習を通じて学修した知識・技術を実際の医療現場で確認するために臨床実習を行う	いるか動物病院・深沢どうぶつ病院・杉山動物病院など動物病院 一次、二次診療施設
動物臨床外科看護学実習	校内実習室に設備された臨床機器を使用して動物外科の準備及び補助技術を理解する。	いるか動物病院・深沢どうぶつ病院・杉山動物病院など動物病院 一次、二次診療施設
動物園学	動物園の飼育管理を座学と現場研修により深く理解する	日本平動物園・富士サファリパーク・アニマルキングダムなど動物園
グルーミング実習	就職後に担当できるレベルまでグルーミング、トリミングの知識と技能を修得する	ドッグサロンフェリーチェ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

- ・現場での実務研修、知識・技術の更新
- ・最新の知識・技術の習得
- ・授業指導の技術と知識の習得
- ・学校・学級運営の技術と知識の習得
- ・その他、ICT等新しい技術知識の習得

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

コロナ禍のため参加予定の研修が中止

② 指導力の修得・向上のための研修等

全専研教員研修（冬季）	2月
鈴木学園教員研修会（春季）	3月
職業教育振興会新人教員研修	8月

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

動物臨床医学研究所	11月
日本臨床獣医学フォーラム	7月

②指導力の修得・向上のための研修等

職業教育振興会 新任教員研修	8月
(一財)職業教育・キャリア教育財団 中堅教員研修会	8月
全専研 教員研修	8月
全専研 教員研修	2月

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」
関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学生による学校、教員評価の結果と教職員による学校評価の結果、及び年間計画やカリキュラム、国家試験合格率、就職実績等の資料を基に当該年度の教育活動、前年度の結果を4. (2)にある項目ごとに評価する。評価に当たっては以下の点が守られていること。

- ② 自己評価に対する評価を基本とし、改善方策・評価項目・重点目標、学校運営の改善取組み等について言及されていること。
- ② 自己評価の評価結果に対して、評価項目ごと学校関係者評価結果が付された相対的な記載となっていること。
- ② 学校関係者評価委員会が、主体的・能動的な評価を実施していること。

【改善等への活用方針】

- ・改善案は評価項目毎の評価を基に、学校関係者評価委員に改善の方針をできるだけ委員会内で示す。
- ・学校関係者評価委員会の評価を参考に具体的な活用方法については学校内で別途検討する。
- ・改善した内容に関しては、職業実践専門課程様式4に基づいて毎年公開する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生生活支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・講義内容の見直し

新カリキュラムの導入に伴い、教育内容の見直しを行い、臨床実習カリキュラムも再構築していく。委員の意見を参考にブラッシュアップしていく。

・基礎学力向上のための対策に活用

動機づけや学習習慣の定着を狙いとし、『初年次教育』に力を入れていく。1年時から国家資格カリキュラムを実施し、学力の底上げを図る。また、モチベーションの低い学生や学力が低い学生をドロップアウトさせないよう指導・対策を行っていく。

・就職指導について

1年時より就職につながる教育や指導を行い、就職先など企業への意識を高めていく。また、4年時には就職説明会、就職相談、面接指導を行い、保護者に対しても十分な説明を実施していく。

・国家試験対策に活用

国家試験100%合格を目標に、対策を再構築する。学習環境の整備、チューター制によるグループ学習、メンタル面でのサポートなどは継続して実施し、具体的なフォローアップ方法を時期によって変えていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
遠藤 志保	専門学校中央医療健康大学校	令和3年4月1日～令和4年3月31日	他校教員
天野 弘	静岡県獣医師会事務局長	令和3年4月1日～令和4年3月31日	業界関係団体役職者
平岡由起子	1年看護コース 保護者	令和3年4月1日～令和4年3月31日	保護者

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公表時期 令和3年6月30日

<https://suzuki.ac.jp/animal/disclosure/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・ホームページへの学校活動の掲示
- ・臨床実習施設連絡会議の開催

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名・所在地・連絡先
(2) 各学科等の教育	理念・教育方針・カリキュラム
(3) 教職員	教職員一覧(氏名・役職)(事業計画書内)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	職業実践・インターン実施状況・キャリア教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	事業計画書(教育目標・教育計画を含む)・事業実績書
(6) 学生の生活支援	学生支援の取り組み状況(事業計画書内)
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項
(8) 学校の財務	貸借対照表 収支決算書
(9) 学校評価	学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公表時期

令和3年6月30日

(3) 情報提供方法

学園ホームページに掲載 <https://suzuki.ac.jp/animal/disclosure/>

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 動物看護師コース) 令和3年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		ショップビジネス論	ペットショップの種類とそれぞれの特徴を知る。主たる業務である「物販」「生体の展示」「生体の預かり」について実務を学ぶ	1通	30		○			○			○		
	○		ITリテラシー I	①コンピューターとインターネットの基本的な仕組みを知る ②Word、Excel、PowerPointなどの使い方とブラインドタッチを知る ③SNSを使った広告の仕方を知る	1通	30		○			○		○			
	○		ITリテラシー II	ITリテラシー I の内容をさらに深く修得する	1通	30		○			○			○		
	○		サービス接遇	サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、対応の技術、口のきき方、態度・振舞いを学ぶ。サービスに対する考え方や行動の型などを学び、おもてなしの心とかたちを育てる。	2通	30		○			○				○	
	○		生命倫理・動物福祉	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。	1通	30		○			○			○		
	○		動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1 2通	120		○			○				○	
	○		動物繁殖学	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する。	2通	30		○			○			○		
	○		動物行動学	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	1 2通	32		○			○				○	
	○		動物栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法の特色や給餌方法を修得する。	2通	60		○			○				○	
	○		比較動物学	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ	1通	60		○			○			○		

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 動物看護師コース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物看護関連法規	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。	1通	15		○			○			○	
○			動物愛護・適正飼養関連法規	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物のあり方等を理解する。	1通	15		○			○			○	
○			動物看護学概論	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1通	30		○			○		○		
○			動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、疾病について理解する。	2通	30		○			○			○	
○			動物薬理学	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	2通	60		○			○			○	
○			動物感染症学	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	1 2通	90		○			○			○	
○			公衆衛生学	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	1 2通	60		○			○			○	○
○			動物内科看護学	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	1 2通	90		○			○			○	
○			動物外科看護学	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	1通	60		○			○			○	

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 動物看護師コース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	1通	30		○			○		○		
○			動物臨床看護学各論	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	12通	120		○			○		○	○	
○			動物臨床検査学	様々な臨床検査の原理や方法、意識について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。	1通	30		○			○			○	
○			動物医療コミュニケーション	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他スタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。	12通	30		○			○		○		
○			愛玩動物学	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。	12通	60		○			○		○		
○			人と動物の関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。	1通	30		○			○		○		
○			適正飼養指導論	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	12通	60		○			○			○	
○			ペット関連産業概論	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。	12通	30		○			○			○	
○			動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	1通	30					○	○			○

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 動物看護師コース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物内科看護学実習	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践を修得する。	1 2 通	120				○	○			○	
○			動物臨床検査学実習	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 2 通	60				○	○			○	
○			動物外科看護学実習	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 2 通	90				○	○			○	○
○			動物臨床看護学実習	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 2 通	60				○	○			○	
○			動物看護総合実習	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実践力を修得する。	1 2 通	180				○	○			○	○
	○		動物製菓実習Ⅰ	安心・安全なペットの食事、ドッグカフェなどで提供できる人とペットのお菓子・料理を学ぶ	1 通	40				○	○			○	
	○		動物製菓実習Ⅱ	動物製菓実習Ⅰで修得した内容をもとに、高齢犬や疾患を持った犬・猫、肥満体の犬・猫に適した食事やおやつを提供できる知識と調理製菓技術を修得する。	2 通	40				○	○			○	
	○		動物リハビリテーション	傷病や高齢または犬種特有の四肢や腰などの障害で日常生活に支障が出ている動物へのリハビリテーションを学ぶ	2 通	15			○		○			○	○
	○		動物リハビリテーション実習	傷病や高齢または犬種特有の四肢や腰などの障害で日常生活に支障が出ている動物へのリハビリテーションを実習を通じて実践的に学ぶ	2 通	15				○	○			○	○
	○		ペット 防災概論	ペットとの同行避難と避難所での過ごし方は近年大きな問題になっていることを踏まえ、避難所での動物アレルギー、鳴き声、排せつなどの問題について一定の知識を持ち、運営主体にアドバイスできる知識を修得する。	2 通	16			○		○			○	○

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 動物看護師コース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		グルーミング	小型犬を中心とした家庭犬のシャンプー、爪切り、肛門腺絞りなどのグルーミング基礎技術を修得する	1 2 通	100				○	○		○		
	○		ドッグトレーニング実習(しつけ学)	家庭犬のしつけについて基礎的な知識と技術を学び、小型犬の基礎的なしつけができるまでのレベルを目指す	1 2 通	30				○	○			○	
	○		アクアリウム実習	水棲生物の基本的な飼育方法及び飼育器材のメンテナンス方法を学ぶ 同時に水槽を使用してのレイアウト技術についても学ぶ	1 通	8				○	○			○	
	○		試験対策	愛玩動物看護師の国家試験を念頭に、動物看護師統一認定機構の資格試験合格を目指して体系的かつ計画的に学習する	1 2 通	120				○			○		

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 ペット美容コース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ショップビジネス論	ペットショップの種類とそれぞれの特徴を知る。主たる業務である「物販」「生体の展示」「生体の預かり」について実務を学ぶ	1 2 通	60		○			○			○	
○			ITリテラシー I	①コンピューターとインターネットの基本的な仕組みを知る ②Word、Excel、PowerPointなどの使い方とブラインドタッチを知る ③SNSを使った広告の仕方を知る	1 通	30		○			○			○	
○			ITリテラシー II	ITリテラシー I の内容をさらに深く修得する	2 通	20		○			○			○	
○			サービス接遇	サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、対応の技術、口のきき方、態度・振舞いを学ぶ。サービスに対する考え方や行動の型などを学び、おもてなしの心とかたちを育てる。	2 通	30		○			○			○	
○			動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1 通	8		○			○			○	
○			伴侶動物学	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、およびエキゾチック動物について学ぶ	1 通	16		○			○			○	
○			公衆衛生学	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	2 通	30		○			○			○	
○			愛玩動物学	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。	1 通	12		○			○			○	○
○			動物愛護・適正飼養関連法規	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物のあり方等を理解する。	1 通	10		○			○			○	○
○			動物医療関係法規	動物や獣医療に関連するさまざまな法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する	2 通	16		○			○			○	

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 ペット美容コース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			美容基礎学	グルーミングに関する専門的な知識を学ぶ。	1通	60		○			○		○		
○			美容応用学	美容基礎で学んだことを元にトリミングの意味や必要性、犬種によるトリミングの違いなどさらに深く追及する。	2通	60		○			○		○		
○			犬学Ⅰ	家畜化の起源と歴史や野生のイヌ科動物の分類と分布、食肉目としての特徴、遺伝、人間と犬のコミュニケーション、子犬の行動発達・問題行動の予防と治療などについて学ぶ。	1通	20		○			○		○		
○			犬学Ⅱ	犬学Ⅰで学習した内容を更に深く学ぶ	2通	30		○			○		○		
○			ネコ学	家畜化の起源と歴史や野生のネコ科動物の分類と分布、食肉目としての特徴、遺伝、人間と犬のコミュニケーション、子犬の行動発達・問題行動の予防と治療などについて学ぶ。	2通	10		○			○		○		
○			適性動物飼養論	愛玩動物の正しい飼い方について、飼育方法だけでなく適正な施設や環境などを学ぶ	1通	50		○			○			○	
○			人と動物の関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。	1通	8		○			○			○	
○			ペット関連産業概論	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ	1通	8		○			○			○	
○			ペットケアアドバイザー	ペットのしつけ方・健康管理と病気の予防・ペットフードの与え方などについて、適切なアドバイスを行う基礎的な知識と技術を修得する	12通	90		○			○			○	

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 ペット美容コース) 令和3年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			ペット防災概論	ペットとの同行避難と避難所での過ごし方は近年大きな問題になっていることを踏まえ、避難所での動物アレルギー、鳴き声、排せつなどの問題について一定の知識を持ち、運営主体にアドバイスできる知識を修得する。	2通	16		○			○			○	○	
○			試験対策	採用試験合格を目指してSPIテストを中心とした体系的かつ計画的に学習する	1通	4		○			○		○			
○			インターンシップ	関係業界の企業で実務研修をすることで、それまでに修得した知識・技術を見直して就職活動に活かす。	1 2通	160		○			○					○
○			グルーミング実習	一人で一頭仕上げるトリミング技術を磨く。卒業後すぐに動けるトリマー(人材)を作っていく。	1 2通	###					○	○		○	○	
○			ドッグトレーニング実習(しつけ学)	犬のしつけに関する専門的な知識や方法を学び、しつけスキルを獲得することで、愛犬に最適な扱い方や、トレーニング方法を身につける。	1 2通	120					○	○		○		
○			動物看護総合実習	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。		0					○	○				○
○			動物製菓実習Ⅰ	愛玩動物にとって安心安全な食材を使用したおやつや食品を学ぶ。また、ドッグカフェで扱う人間の食事やお菓子についても扱う。	1通	80					○	○				○
○			動物製菓実習Ⅱ	高齢や肥満により食事制限のある愛玩動物を中心に、その他の疾患によって摂取できる食材が限られている愛玩動物が安心して食べられる食品について学ぶ	2通	80					○	○				○
○			アクアリウム実習	水槽のレイアウトや清掃を学び、水生生物について学ぶ。	1通	10					○	○		○		

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 アニマルマスターコース) 令和3年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			ショップビジネス論	ペットショップの種類とそれぞれの特徴を知る。主たる業務である「物販」「生体の展示」「生体の預かり」について実務を学ぶ	1通	60		○			○			○		
○			ITリテラシー I	①コンピューターとインターネットの基本的な仕組みを知る ②Word、Excel、PowerPointなどの使い方とブラインドタッチを知る ③SNSを使った広告の仕方を知る	1通	30		○			○			○		
○			ITリテラシー II	ITリテラシー I の内容をさらに深く修得する	2通	30		○			○			○		
○			サービス接遇	サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、対応の技術、口のきき方、態度・振舞いを学ぶ。サービスに対する考え方や行動の型などを学び、おもてなしの心とかたちを育てる。	2通	60		○			○				○	
○			犬学	家畜化の起源と歴史や野生のイヌ科動物の分類と分布、食肉目としての特徴、遺伝、人間と犬のコミュニケーション、子犬の行動発達・問題行動の予防と治療などについて学ぶ。	1 2通	80		○			○				○	
○			動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1通	8		○			○				○	
○			動物行動学	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	1 2通	32		○			○				○	
○			動物繁殖学	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する。	1通	30		○			○				○	
○			動物栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法の特徴や給餌方法を修得する。	1通	40		○			○				○	
○			公衆衛生学	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	1通	30		○			○				○	

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 アニマルマスターコース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物愛護・適正飼養関連法規	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物のあり方等を理解する。	1通	10		○			○		○		
○			愛玩動物学	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。	1通	12		○			○		○	○	
○			人と動物の関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。	1通	8		○			○			○	
○			ペット関連産業論	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ	1通	10		○			○			○	○
○			適正動物飼養論	愛玩動物の正しい飼い方について、飼育方法だけでなく適正な施設や環境などを学ぶ	1通	50		○			○			○	
○			動物園学	生体の管理方法だけでなく施設としての動物園の役割や展示方法、施設の運営や維持管理などについて学び理解を深める	1 2通	140		○			○			○	
○			畜産学	牛や馬などの家畜の歴史や飼育方法、家畜の疾病に関係する法律等の理解を深める	1 2通	100		○			○			○	
○			コンパニオンアニマル学/実習	ウサギやモルモットなどのコンパニオンアニマルから爬虫類、鳥類などの歴史や疾病などの飼育管理に必要な知識を学ぶ	1 2通	80		○			○	○		○	
○			体育	動物関連の職業に就き、業務を行う上で必要な基礎体力を培う。	1 2通	120					○	○			○
○			野生動物学/実習	キリンやゾウなどの大型動物から小型の野生動物まで幅広い動物の生態や飼育管理について学ぶ。	1 2通	160		○			○	○		○	

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 アニマルマスターコース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			トレーニング学/実習	犬のトレーニングに関する専門的な知識や方法を学び、しつけの技術を獲得することで、愛犬への最適な接し方や、トレーニング方法を身につける。	1 2 通	120		○		○	○			○	
○			アクアリウム学/実習	魚類の分類や生態などの知識と基本的な飼育管理方法、飼育機材のメンテナンス技術も学ぶ。また水槽を使用してのレイアウト技術の習得を行う	1 通	8		○		○	○			○	
○			飼育実習	座学で学んだ知機を活用し、飼育室で飼育している小動物の飼育管理を通して、実践的な飼育管理技術について学ぶ	1 2 通	60				○	○			○	
○			施設管理実習	現場で使用される道具等の名称を覚える。またノギリやハンマーなどの基本的な使用法を実践的に学び、現場で活かせる技術を習得する	1 2 通	120				○		○		○	
○			グルーミング実習	小型犬を中心とする犬のシャンプーや肛門腺絞りなど基本的なグルーミングの知識、技術の習得を行う	1 2 通	120				○	○			○	
○			動物看護総合実習	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する	1 通	8				○	○			○	
○			動物製菓実習 I	愛玩動物にとって安心安全な食材を使用したおやつや食品を学ぶ。また、ドッグカフェで扱う人間の食事やお菓子についても扱う。	1 通	60				○	○			○	
○			動物製菓実習 II	高齢や肥満により食事制限のある愛玩動物を中心に、その他の疾患によって摂取できる食材が限られている愛玩動物が安心して食べられる食品について学ぶ	2 通	40				○	○			○	
○			ペットケアアドバイザー	顧客の愛玩動物の健康状態を事前にチェックすることで、飼い主に適切なアドバイスを行うことができるように、犬・ネコの傷病について学ぶ	1 通	60		○			○			○	
○			ペット防災概論	ペットとの同行避難と避難所での過ごし方は近年大きな問題になっていることを踏まえ、避難所での動物アレルギー、鳴き声、排せつなどの問題について一定の知識を持ち、運営主体にアドバイスできる知識を修得する	2 通	16		○			○			○	○

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 アニマルマスターコース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職試験対策	就職試験で出題される一般教養やSPIなどの対策や面接指導、個人対策指導を行う	1 2 通	60		○			○		○		
○			卒業研究	課程で学修した内容をもとに自己の興味と併せて研究し、成果をまとめる	2 通	90		○			○		○		
○			インターンシップ	関連施設で臨地研修を行うことによって、学内で修得した知識や技能を実践的に現場で活用する	1 2 通	160		○		○	○	○	○		○

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 海洋アクアリウムコース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ショッピングビジネス論	ペットショップの種類とそれぞれの特徴を知る。主たる業務である「物販」「生体の展示」「生体の預かり」について実務を学ぶ	1通	60		○			○			○	
○			ITリテラシー I	①コンピューターとインターネットの基本的な仕組みを知る ②Word、Excel、PowerPointなどの使い方とブラインドタッチを知る ③SNSを使った広告の仕方を知る	1通	30		○			○		○		
○			ITリテラシー II	ITリテラシー I の内容をさらに深く修得する	2通	30		○			○		○		
○			サービス接遇	サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、対応の技術、口のきき方、態度・振舞いを学ぶ。サービスに対する考え方や行動の型などを学び、おもてなしの心とかたちを育てる。	2通	60		○			○			○	
○			犬学	家畜化の起源と歴史や野生のイヌ科動物の分類と分布、食肉目としての特徴、遺伝、人間と犬のコミュニケーション、子犬の行動発達・問題行動の予防と治療などについて学ぶ。	1通	20		○			○			○	
○			動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1通	8		○			○			○	
○			動物行動学	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	12通	32		○			○			○	
○			動物繁殖学	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する。	1通	30		○			○		○		
○			動物栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法の特色や給餌方法を修得する。	1通	40		○			○			○	
○			公衆衛生学	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	1通	30		○			○			○	

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 海洋アクアリウムコース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物愛護・適正飼養関連法規	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物のあり方等を理解する。	1通	10		○			○		○		
○			愛玩動物学	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。	1通	12		○			○		○		
○			人と動物の関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。	1通	8		○			○			○	
○			ペット関連産業論	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ	1通	10		○			○			○	○
○			適正動物飼養論	愛玩動物の正しい飼い方について、飼育方法だけでなく適正な施設や環境などを学ぶ	1通	50		○			○			○	
○			水族館収集輸送各論	水族館で展示される生物の生態の理解、採取方法から輸送するための知識、技術を学ぶ	1通	60		○			○				○
○			水族館教育各論	水族館の役割としての教育の重要性について学び、その方法や理論の理解を深める	2通	60		○			○				○
○			水棲哺乳類学	鯨類からアシカやラッコなどの水棲哺乳類の生態や生理、分類など飼育管理に必要な知識を深める	1 2通	120		○			○			○	
○			コンパニオンアニマル学/実習	ウサギやモルモットなどのコンパニオンアニマルから爬虫類、鳥類などの歴史や疾病などの飼育管理に必要な知識を学ぶ	1 2通	80		○		○	○			○	
○			体育	水族館・動物園での業務を行う上で必要な基礎体力を培う。	2通	60					○	○			○

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 海洋アクアリウムコース) 令和3年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			トレーニング学/実習	犬のトレーニングに関する専門的な知識や方法を学び、しつけスキルを獲得することで、愛犬に最適な扱い方や、トレーニング方法を身につける。	1 2 通	120		○		○	○			○		
○			アクアリウム学/実習	魚類の分類や生態などの知識と基本的な飼育管理方法、飼育機材のメンテナンス技術も学ぶ。また水槽を使用してのレイアウト技術の習得を行う	1 2 通	160		○		○	○			○		
○			飼育実習	座学で学んだ知機を活用し、飼育室で飼育している小動物の飼育管理を通して、実践的な飼育管理技術について学ぶ	1 2 通	60				○	○		○			
○			スイミング実習	水族館での業務を想定し、一般社団法人日本スイミングクラブ協会泳力認定2級に相当する泳力を取得することを目標とする。	1 通	90				○		○		○		
○			施設管理実習	一般のお店に水槽を設置してメンテナンスを行い、お客様のニーズに対する対応力や接客スキル、水槽のメンテナンス技術について理解を深める	2 通	60				○		○	○		○	
○			グルーミング実習	小型犬を中心とする犬のシャンプーや肛門腺絞りなど基本的なグルーミングの知識、技術の習得を行う	1 2 通	120				○	○		○			
○			動物製菓実習Ⅰ	愛玩動物にとって安心安全な食材を使用したおやつや食品を学ぶ。また、ドッグカフェで扱う人間の食事やお菓子についても扱う。	1 通	60				○	○		○			
○			動物製菓実習Ⅱ	高齢や肥満により食事制限のある愛玩動物を中心に、その他の疾患によって摂取できる食材が限られている愛玩動物が安心して食べられる食品について学ぶ	2 通	40				○	○		○			
			ペットケアアドバイザー	顧客の愛玩動物の健康状態を事前にチェックすることで、飼い主に適切なアドバイスを行うことができるように、犬・ネコの傷病について学ぶ	1 通	60		○			○			○		
			ペット防災概論	ペットとの同行避難と避難所での過ごし方は近年大きな問題になっていることを踏まえ、避難所での動物アレルギー、鳴き声、排せつなどの問題について一定の知識を持ち、運営主体にアドバイスできる知識を修得する	2 通	16		○			○			○	○	

授業科目等の概要

(専門課程 動物総合学科 海洋アクアリウムコース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			資格取得対策	水族館の就職に必要とされる潜水士とオープンウォーターダイバーの資格取得を目指す。	1通	36		○			○			○	
○			就職試験対策	就職試験で出題される数学やSPIなど対策を行い、同時に面接指導等で面接対策も行う	1 2通	60		○			○		○		
○			卒業研究	課程で学修した内容をもとに自己の興味と併せて研究し、成果をまとめる	2通	90		○			○		○		
○			インターンシップ	関連施設で臨地研修を行うことによって、学内で修得した知識や技能を実践的に現場で活用する	1 2通	160		○		○	○	○	○		○
		○	ダイビング演習	水族館や関連業界での業務を想定し、パディ、潜水士の資格取得を目標とする	1通	24			○			○		○	